

II 業種別鉱工業生産及び生産者製品在庫の動き（表3、表4）

1. 鉄鋼業

元年の県内鉄鋼業の生産指数は108.5で、対前年比1.8%と3年連続して増加した。これは、可鍛鑄鉄、鋳鉄鑄物等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期106.4（対前期比0.6%減）、4～6月期103.5（同2.7%減）と63年10～12月期から3期連続して減少し、7～9月期は112.3（同8.6%増）と4期ぶりに増加したが、10～12月期は111.8（同0.4%減）と再び減少した。

一方、在庫指数の年平均は97.6で、対前年比6.7%と3年ぶりに増加した。これを四半期別にみると、1～3月期は97.6（対前期比5.9%増）と63年4～6月期から4期連続して増加し、4～6月期は94.2（同3.4%減）と5期ぶりに減少したが、7～9月期95.1（同1.0%増）、10～12月期103.5（同8.8%増）と2期連続して増加した。

2. 非鉄金属工業

元年の県内非鉄金属工業の生産指数は121.2で、対前年比7.8%と7年連続して増加した。これは、銅裸線、銅被覆線等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期116.4（対前期比0.8%減）、4～6月期122.8（同5.6%増）、7～9月期122.3（同0.5%減）、10～12月期124.0（同1.4%増）と、増減をくり返した。

一方、在庫指数の年平均は81.5で、対前年比△8.3%と3年連続して減少した。これを四半期別にみると、1～3月期85.8（対前期比11.1%減）、4～6月期77.2（同10.1%減）と2期連続して減少し、7～9月期は83.7（同8.5%増）と3期ぶりに増加したが、10～12月期は79.9（同4.5%減）と再び減少した。

3. 金属製品工業

元年の県内金属製品工業の生産指数は139.5で、対前年比8.9%と5年連続して増加した。これは、アルミニウムサッシ、管継手等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期159.0（対前期比20.5%増）と63年7～9月期から3期連続して増加し、4～6月期134.8（同15.2%減）、7～9月期131.6（同2.3%減）と2期連続して減少したが、10～12月期は132.5（同0.6%増）と再び増加した。

一方、在庫指数の年平均は93.3で、対前年比12.6%と4年ぶりに増加した。これを四半期別にみると、1～3月期78.4（対前期比1.9%増）、4～6月期89.7（同14.4%増）、7～9月期99.5（同11.0%増）、10～12月期108.7（同9.2%増）と4期連続して増加した。

4. 機械工業

元年の県内機械工業の生産指数は、電気機械工業が減少したが、輸送機械工業、一般機械工業が増加したため、対前年比7.8%と2年連続して増加し指数は114.2となった。また、在庫指数は、一般機械工業、電気機械工業、輸送機械工業がともに増加したため、前年比28.6%と増加し、指数は114.9となった。

4-1 一般機械工業

元年の県内一般機械工業の生産指数は136.6で、対前年比14.5%と3年連続して増加した。これは、軸受、飲料用自動販売機等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期132.8（対前期比9.3%増）、4～6月期141.0（同6.1%増）、7～9月期146.2（同3.8%増）と3期連続して増加し、10～12月期は126.6（同13.4%減）と4期ぶりに減少した。

一方、在庫指数の年平均は123.3で、対前年比15.1%と2年ぶりに増加した。これを四半期別にみると、1～3月期117.6（対前期比10.0%増）、4～6月期119.4（同1.6%増）と63年10～12月期から3期連続して増加し、7～9月期は117.0（同2.1%減）と4期ぶりに減少したが、10～12月期は138.3（同18.2%増）と再び増加した。

4-2 電気機械工業

元年の県内電気機械工業の生産指数は95.3で、対前年比△7.0%と2年連続して減少した。これは、その他制御リレー、配線

器具等が減少したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期92.0（対前期比4.3%減）と2期ぶりに減少し、4～6月期93.8（同1.9%増）、7～9月期99.8（同6.4%増）と2期連続して増加したが、10～12月期は95.5（同4.3%減）と再び減少した。

一方、在庫指数の年平均は89.9で、対前年比18.0%と3年ぶりに増加した。これを四半期別にみると、1～3月期88.3（対前期比11.4%増）、4～6月期91.5（同3.5%増）と63年7～9月期から4期連続して増加し、7～9月期は（同3.8%減）と5期ぶりに減少したが、10～12月期は93.2（同6.0%増）と再び増加した。

4-3 輸送機械工業

元年の県内輸送機械工業の生産指数は116.5で、対前年比12.5%と2年連続して増加した。これは、小型自動車、鋼船等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期110.8（対前期比5.5%増）、4～6月期113.1（同2.1%増）、7～9月期127.5（同12.7%増）と3期連続して増加し、10～12月期は116.9（同8.3%減）と4期ぶりに減少した。

一方、在庫指数の年平均は144.1で、対前年比77.6%と2年ぶりに増加した。これを四半期別にみると、1～3月期109.9（対前期比3.2%増）と63年7～9月期から3期連続して増加し、4～6月期104.7（同4.7%減）と4期ぶりに減少したが、7～9月期154.0（同47.1%増）、10～12月期207.1（同34.5%増）と2期連続して増加した。

5. 窯業・土石製品工業

元年の県内窯業・土石製品工業の生産指数は104.9で、対前年比3.4%と3年連続して増加した。これは、陶磁器タイル、安全ガラス等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期104.5（対前期比2.7%増）、4～6月期104.3（同0.3%減）、7～9月期106.1（同1.8%増）、10～12月期104.5（同1.5%減）と増減をくり返した。

一方、在庫指数の年平均は99.9で、対前年比0.4%と3年ぶりに増加した。これを四半期別にみると、1～3月期102.0（対前期比2.8%増）と2期ぶりに増加し、4～6月期は96.8（同5.1%減）と減少したが、7～9月期98.8（同2.1%増）、10～12月期102.4（同3.6%増）と2期連続して増加した。

6. 化学工業

元年の県内化学工業の生産指数は118.8で、対前年比10.2%と9年連続して増加した。これは、ポリスチレン、環式中間物等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期112.5（対前期比0.3%増）、4～6月期123.1（同9.4%増）と63年7～9月期から4期連続して増加したが、7～9月期121.1（同1.6%減）、10～12月期118.8（同1.9%減）と2期連続して減少した。

一方、在庫指数の年平均は103.8で、対前年比16.8%と4年ぶりに増加した。これを四半期別にみると、1～3月期95.9（対前期比3.3%増）、4～6月期101.1（同5.4%増）、7～9月期104.8（同3.7%増）、10～12月期114.4（同9.1%増）と63年7～9月期から6期連続して増加した。

7. 石油・石炭製品工業

元年の県内石油・石炭製品工業の生産指数は99.0で、対前年比1.4%と2年連続して増加した。これは、揮発油、A重油等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期95.4（対前期比6.0%減）、4～6月期97.9（同2.7%増）7～9月期95.7（同2.3%減）、10～12月期108.9（同13.8%増）と増減をくり返した。

一方、在庫指数の年平均は109.4で、対前年比0.4%と2年連続して増加した。これを四半期別にみると、1～3月期120.1（対前期比7.0%増）と63年7～9月期から3期連続して増加し、4～6月期107.6（同10.4%減）、7～9月期102.4（同4.8%減）と2期連続して減少したが、10～12月期は110.7（同8.1%増）と再び増加した。

8. プラスチック製品工業

元年の県内プラスチック製品工業の生産指数は111.6で、対前年比15.5%と2年連続して増加した。これは、フィルムシー

ト、機械器具部品等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期104.4（対前期比5.5%増）4～6月期113.0（同8.2%増）、7～9月期115.2（同2.0%増）と63年4～6月期から6期連続して増加し、10～12月期は113.6（同1.4%減）と7期ぶりに減少した。

一方、在庫指数の年平均は56.3で、対前年比△4.1%と4年連続して減少した。これを四半期別にみると、1～3月期52.6（対前期比3.3%増）、4～6月期56.0（同6.4%増）、7～9月期58.0（同3.6%増）、10～12月期58.4（同0.7%増）と4期連続して増加した。

9. パルプ・紙・紙加工品工業

元年の県内パルプ・紙・紙加工品工業の生産指数は97.0で、対前年比8.2%と2年ぶりに増加した。これは、製紙パルプ、雑種紙等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期89.8（対前期比9.7%増）、4～6月期106.2（同18.3%増）と2期連続して増加し、7～9月期は91.1（同14.3%減）と3期ぶりに減少したが、10～12月期は98.2（同7.8%増）と再び増加した。

一方、在庫指数の年平均は175.3で、対前年比147.3%と5年ぶりに増加した。これを、四半期別にみると1～3月期71.4（対前期比12.2%減）と3期ぶりに減少したが、4～6月期161.9（同126.9%増）、7～9月期190.1（同17.5%増）、10～12月期261.2（同37.4%増）と3期連続して増加した。

10. 繊維工業

元年の県内繊維工業の生産指数は102.9で、対前年比△0.9%と2年連続して減少した。これは、綿糸、毛糸等が減少したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期104.4（対前期比1.0%増）、4～6月期103.9（同0.5%減）、7～9月期103.9（同±0.0%）、10～12月期99.5（同4.2%減）と増減をくり返した。

一方、在庫指数の年平均は95.7で、対前年比6.1%と2年連続して増加した。これを、四半期別にみると1～3月期87.9（対前期比1.3%減）と63年10～12月期から2期連続して減少し、4～6月期96.8（同10.2%増）、7～9月期97.6（同0.9%増）、10～12月期100.7（同3.2%増）と3期連続して増加した。

11. 食料品工業

元年の県内食料品工業の生産指数は94.2で、対前年比△1.5%と2年連続して減少した。これは、小麦粉、植物油等が減少したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期97.1（対前期比2.0%増）と2期ぶりに増加したが、4～6月期95.8（同1.4%減）、7～9月期93.7（同2.1%減）、10～12月期90.5%（同3.4%減）と3期連続して減少した。

一方、在庫指数の年平均は99.1で、対前年比△5.8%と2年連続して減少した。これを四半期別にみると、1～3月期100.6（対前期比3.1%増）、4～6月期103.0（同2.3%増）と2期連続して増加したが、7～9月期100.7（同2.2%減）、10～12月期92.1（同8.5%減）と2期連続して減少した。

12. その他工業

元年の県内その他工業の生産指数は101.4で、対前年比1.1%と3年連続して増加した。各業種の対前年比をみると、ゴム製品工業5.7%、家具工業△19.7%、木材・木製品工業△0.6%、その他製品工業△2.4%であった。四半期別に推移をみると、1～3月期98.8（対前期比1.3%増）、4～6月期101.8（同3.1%増）、7～9月期102.9（同1.1%増）と3期連続して増加したが、10～12月期は102.0（同0.9%減）と減少した。

一方、在庫指数の年平均は99.1で、対前年比△2.5%と2年連続して減少した。各業種の対前年比をみると、ゴム製品工業が19.5%と増加したものの、家具工業△62.5%、木材・木製品工業△11.2%と減少した。これを四半期別にみると、1～3月期96.3（対前期比5.2%減）と63年10～12月期から2期連続して減少したが、4～6月期98.2（同2.0%増）7～9月期100.1（同1.9%増）、10～12月期102.1（同2.0%増）と3期連続して増加した。

13. 鉱 業

元年の県内鉱業生産指数は126.9で、対前年比5.4%と4年連続して増加した。これは、石灰石、かんらん岩等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期113.9（対前期比4.1%減）と63年10～12月期より2期連続して減少したが、4～6月期125.0（同9.8%増）、7～9月期125.1（同0.1%増）、10～12月期142.7（同14.1%増）と3期連続して増加した。

一方、在庫指数の年平均は66.5で、対前年比△16.0%と2年連続して減少した。これを四半期別にみると、1～3月期65.6（対前期比9.6%減）、4～6月期65.2（同0.7%減）、7～9月期60.4（同7.4%減）と63年10～12月期から4期連続して減少したが、10～12月期は75.1（同24.4%増）と増加した。

14. 公益事業（参考）

元年の県内公益事業の生産指数は203.3で、対前年比13.2%と増加した。これは、電力、ガスともに増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期204.2（対前期比10.7%減）、4～6月期220.5（同8.0%増）、7～9月期182.7（同17.1%減）、10～12月期210.7（同15.3%増）と増減をくり返した。

表3 業種別鉱工業生産指数増減率

昭和60年=100

	対前年増減率（%）				元年四半期別・対前期増減率（%）			
	61年	62年	63年	元年	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期
鉱工業	0.1	1.3	3.6	6.1	2.8	2.7	2.3	△2.8
製造業	0.1	1.3	3.6	6.1	2.9	2.7	2.4	△2.9
鉄鋼業	△8.6	9.4	6.7	1.8	△0.6	△2.7	8.6	△0.4
非鉄金属工業	5.7	1.5	4.8	7.8	△0.8	5.6	△0.5	1.4
金属製品工業	1.4	13.4	11.5	8.9	20.5	△15.2	△2.3	0.6
機械工業	2.5	△1.9	5.8	7.4	3.1	2.9	8.7	△7.6
一般機械工業	△3.2	7.8	14.4	14.5	9.3	6.1	3.8	△13.4
電気機械工業	△0.8	5.1	△1.7	△7.0	△4.3	1.9	6.4	△4.3
輸送機械工業	6.6	△9.0	6.8	12.5	5.5	2.1	12.7	△8.3
窯業・土石製品工業	△3.8	4.2	1.2	3.4	2.7	△0.3	1.8	△1.5
化学工業	0.8	4.3	2.6	10.2	0.3	9.4	△1.6	△1.9
石油・石炭製品工業	△1.8	△4.3	3.9	1.4	△6.0	2.7	△2.3	13.8
プラスチック製品工業	△3.8	△4.2	4.9	15.5	5.5	8.2	2.0	△1.4
パルプ・紙・紙加工品工業	1.4	6.5	△17.4	8.2	9.7	18.3	△14.3	7.8
繊維工業	△0.8	7.2	△2.3	△0.9	1.0	△0.5	0.0	△4.2
食料品工業	△2.7	1.8	△3.4	△1.5	2.0	△1.4	△2.1	△3.4
その他工業	△3.9	2.8	1.6	1.1	1.3	3.1	1.1	△0.9
鉱業	4.5	0.8	14.2	5.4	△4.1	9.8	0.1	14.1
非金属鉱業	4.5	0.8	14.2	5.4	△4.1	9.8	0.1	14.1
公益事業	11.8	3.3	55.7	13.2	△10.7	8.0	△17.1	15.3
産業総合	0.5	1.4	5.3	6.4	2.0	2.8	1.8	△2.3

表4 業種別鉱工業生産者製品在庫指数増減率

昭和60年=100

	対前年増減率(%)				元年四半期別・対前期増減率(%)			
	61年	62年	63年	元年	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期
鉱工業	3.9	△6.7	△4.7	11.7	2.7	2.7	3.4	8.6
製造工業	3.9	△6.7	△4.7	11.7	2.7	2.7	3.5	8.5
鉄鋼業	11.2	△5.4	△13.0	6.7	5.9	△3.4	1.0	8.8
非鉄金属工業	12.9	△14.6	△7.8	△8.3	△11.1	△10.1	8.5	△4.5
金属製品工業	△0.6	△6.0	△11.3	12.6	1.9	14.4	11.0	9.2
機械工業	11.3	△3.0	△17.3	28.6	7.6	4.2	7.3	17.4
一般機械工業	2.8	4.7	△0.5	15.1	10.0	1.6	△2.1	18.2
電気機械工業	5.8	△13.7	△16.6	18.0	11.4	3.5	△3.8	6.0
輸送機械工業	36.1	1.4	△41.2	77.6	3.2	△4.7	47.1	34.5
窯業・土石製品工業	13.1	△7.6	△4.8	0.4	2.8	△5.1	2.1	3.6
化学工業	△3.2	△8.1	△0.1	16.8	3.3	5.4	3.7	9.1
石油・石炭製品工業	6.2	△4.1	7.0	0.4	7.0	△10.4	△4.8	8.1
プラスチック製品工業	△2.6	△18.7	△26.0	△4.1	3.3	6.4	3.6	0.7
パルプ・紙・紙加工品工業	△1.1	△4.5	△24.9	147.3	△12.2	126.9	17.5	37.4
繊維工業	△0.7	△11.9	3.1	6.1	△1.3	10.2	0.9	3.2
食料品工業	2.5	8.2	△5.1	△5.8	3.1	2.3	△2.2	△8.5
その他工業	1.5	3.1	△2.9	△2.5	△5.2	2.0	1.9	2.0
鉱業	△8.8	3.6	△16.2	△16.0	△9.6	△0.7	△7.4	24.4
非金属鉱業	△8.8	3.6	△16.2	△16.0	△9.6	△0.7	△7.4	24.4
公益事業	-	-	-	-	-	-	-	-
産業総合	3.9	△6.7	△4.7	11.7	2.7	2.7	3.4	8.6